

表 3 学習教育目標とその評価方法（環境都市工学科ーエコシステム工学専攻、平成27年度修了生用）

学習・教育目標		関連する 基準 1 (1) (a)～(h)の 項目	評価方法	備考
（Ａ）和歌山県の地域環境，地域社会との共生に関する理解および倫理観を身につけ，公共の安全や利益に配慮したものづくりの考え方を理解し説明できる。		(a)  (b)	社会と人間、地域と文化（本科）、現代アジア論（専攻科） 上記の科目より 1 単位以上修得を義務づける。 各科目の修得条件はシラバスに記載 企業実践講座、知的財産権(本科)、技術者倫理、環境アセスメント（専攻科） 上記の科目より 2 単位以上の修得を義務づける。 修得条件はシラバスに記載。	
（Ｂ）社会のニーズおよび環境に配慮し、かつ与えられた制約下で、工学の基礎的な知識・技術を統合して課題を解決するデザイン能力を身につける。		(d2) b),c) (e) (h)	基礎実験Ⅱ、設計製図Ⅲ、卒業研究（本科）、工学特別実験、工学特別研究、創造プログラミング（専攻科） 上記の科目より 31 単位以上の修得を義務づける。 修得条件はシラバスに記載。	
（Ｃ）自主的・継続的な学習を通じて、自己の専門分野での深い学問的知識や経験に加え、他分野にまたがる幅広い知識を身につける。	（Ｃ－１）自然科学・情報技術に関する基礎的素養を有し、それぞれの専門分野での問題解決のためにそれらを駆使できる能力を身につける。	(c)	応用数学Ⅰ、応用数学Ⅱ、都市環境工学、計画数理、地形情報処理学、応用情報処理演習Ⅰ、応用情報処理演習Ⅱ、計画数理（本科）数理工学、数理統計学、線形代数、数値計算・解析法、量子力学、物性物理、環境マネジメント（専攻科） 上記の科目より 8 単位以上の修得を義務づける。 修得条件はシラバスに記載。	
		(d1)	設計・システム系、情報論理系、材料・バイオ系、力学系、および社会技術系の科目群より、各系 1 科目合計 6 科目以上の単位を取得することを義務づける。 各系の科目群は別に記す。 修得条件はシラバスに記載。	
	（Ｃ－２）それぞれの専門分野に関する深い学問的知識と実験・実習で得た多くの経験を持ち、それらを問題解決のために応用できる能力を身につける。	(d2) a),d)	各専門分野で指定された科目群より 1 0 単位以上修得のこと。各専門分野の科目群は別に記す。 修得条件はシラバスに記載。	
		(g)		
（Ｄ）自分の考えを論理的に文章化する確かな記述力、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力、プレゼンテーション能力を身につける。		(f)  (f)	卒業研究（本科）、工学特別研究（専攻科） 上記の科目の修得を義務づける。 修得条件はシラバスに記載。  英語、英語 A、英語 B、工業外国語（本科）時事英語、実用英会話、テクニカルライティング <sup>※</sup> 、ビジネスコミュニケーション、工学特別ゼミナール（専攻科） 上記の科目のうち 8 単位の修得を義務づける。 修得条件はシラバスに記載。	

C－１（d 1）に相当する科目

環境都市工学科	①設計・システム系科目群 ②情報・論理系科目群 ③材料・バイオ系科目群 ④力学系科目群 ⑤社会技術系科目群	設計製図Ⅱ、コンクリート構造学Ⅱ（本科必修）、 鋼構造学、振動工学、コンクリート構造学特論、耐震工学、施工管理学、建築学概論（本科選択） 測量学Ⅳ（本科必修）、電気工学概論（本科選択）、情報理論（専攻科選択） 土質力学（本科必修）、土質力学特論（本科選択）、応用材料工学（専攻科選択） 構造力学Ⅲ、水理学Ⅱ（本科必修）、構造力学特論、水工水理学（本科選択） 環境計画学、資源循環システム学、水道工学、下水道工学、社会基盤メンテナンス工学、交通システム、 道路工学、都市地域計画、総合演習Ⅰ、総合演習Ⅱ、地形情報処理学、環境地盤工学、機械工学概論、 景観工学（本科選択）、環境化学工学、環境分析、センサー工学、地域環境工学（専攻科選択）
---------	---	--

C－２（d 2）a），d）に相当する科目

エコシステム工学専攻	複合構造工学、応用地盤工学、水圏工学、応用エネルギー工学、反応有機化学、遺伝子工学、細胞工学、分離工学、有機機能材料、化学反応論、生体高分子、建設設計工学、社会基盤計画学（専攻科選択）
------------	--

C－３（g）に相当する科目

環境都市工学科・エコシステム工学専攻	学外実習（本科選択） 工学特別ゼミナール(1年次、2年次)（専攻科必修）、インターンシップ（専攻科選択）
--------------------	---